

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録（2日目）

（令和4年12月9日 午後2時45分）

●議長（佐藤武雄） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

通告の5 小川敬史議員。

1、町長の政治姿勢は

議席番号3番、小川敬史議員。

◆3番（小川敬史） 議席番号3番、小川敬史です。まず初めに鈴木町長就任おめでとうございます。町も議会も、町を良くしたいという思いは一緒ですので、同じ方向を向いて共に一丸となってやっていけたらと思いますので、よろしく願いいたします。それでは一般質問に移ります。先ほど同僚議員からの質問と重複する点があるかと思いますが、再度質問させていただきます。まず初めに、今回の町長選挙が無投票だったということで、選挙公報の配布もなかったことから、町民の方から新町長がどんな方なのか、どんな公約を掲げているのかと、よく聞かれます。そこで私自身が鈴木町長にお聞きしたいと思っていることは、議員として1期目でわずかな期間ですが、町長の仕事の大変さが身に染みてわかりました。県職員を早期退職し、若い頃からの希望であった開発途上国でのODA、いわゆる政府開発援助に参加するなど、世界に目を向けた素晴らしい活動をされておりましたが、ただ地元では鈴木町長のことをあまり知られない方もいます。そこでお聞きします。今回重責である町長選に立候補しようとした熱い思いをお聞かせください。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） ただ今の小川議員の質問にお答えいたします。私、野尻に生まれまして野尻に育ち、高校卒業後しばらく学校とか仕事の関係で信濃町からは離れましたが、38歳の年に子どもたちと一緒に野尻に帰ってまいりました。私仕事、県の職員だったものですから、諏訪とか上田、北信いろいろな職場、転勤で移動いたしました。ずっと住まいは野尻に置いておりました。そういった中で、地域の活動にも参加するような機会ありまして、本当にそんなに大きな役には立たなかったわけですが、区の役員にもなりまして、いろいろな活動に携わってまいりました。そういった中で、地域が抱えている課題、これは小さいものではないと。そしてまた一人で解決できることでもまたない。多くの皆さんの力を合わせて取り組まなければ、到底解決につながらないと、そういう場面に多く出くわしました。そういった中で、将来どうしていくのか、この町をどうしていくのかというような話題も、仲間の中からはほら聞こえてくるような、そのような世代になったのかなという感じで、酒を酌み交わす、そういった場面でも将来のこと

についてのいろいろな意見が出てくるようになってまいりました。そういう中で、仲間から何とか力になってもらえないかというような話もいただきまして、最初は、本当に私のような者に何ができるのかということで、本当に逡巡していたわけですが、何とか頑張れば、何て言うんですか、お手伝いできるのかなというようなことに至りまして、皆さんの応援をいただく中で、出馬を判断したという経過であります。お答えになったかどうか分かりませんが、これまでの私の道筋を少し説明させていただきました。ありがとうございます。

●議長(佐藤武雄) 小川議員。

◆3番(小川敬史) 今、答弁ありましたとおり、地域の抱えている課題を解決したい、何かお手伝いしたいという勇気ある決断をしたということですが、28日に着任し早一週間以上過ぎましたが、実際に町長になられてみて町長としての仕事はどう感じたか、お伺いします。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) はい。本当に先週から役場の方に勤めさせていただいておりまして、日々経験したことのないようなことばかりであります。あいさつ回りに伺ったり、そしてまた職員の皆さんから現在抱えている町の課題等について説明を受けるというような状況でありまして、まだまだ地に足がついていない状況であります。それでもやっぱり自分の地元と言いますか、生まれ育った町ですので友達も仲間も大勢おります。知人もおります。先輩の皆さんもおりますので、皆さんに支えていただきながら、前へ、少しでも前へ進んでいければなと思っておりますので、議員各位の皆さんにもぜひご協力をお願いしたいと思っております。以上です。

●議長(佐藤武雄) 小川議員。

◆3番(小川敬史) はい。町長、思った以上に抱えている課題など多く大変だと思いますが、所信を貫いて頑張っていたいただきたいと思います。次に、新聞に掲載されたコメントや政治活動用ビラ等で基本姿勢や具体的に掲げている公約的な施策について、若干拝見しましたが、ほとんどの町民の方が鈴木町長の公約を知らないのです、ここで再度確認の意味で町長の公約についてお聞かせください。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) まず町政に関します施策の基本方針といたしましては、「住んで良かった信濃町を次の世代へ」という目標を掲げております。全ての町民がこの信濃町に住

んでいることに誇りを持ち、穏やかな充実感に満たされている、そのような思いを共感し実感できる町づくりを進め、次の世代へ引き継いでいく、そのような形を想定しております。また、こうした認識を土台に据えまして、現時点で取り組むべき課題を明らかにし、その内容を町民の皆さんに丁寧に説明した上で着実に対策を講じて行く、そのような行政のあり方が望ましいと考えております。具体的には、以下に述べる4点を当面の目標として掲げたいと思っております。第一に、「コロナ禍からの再生」を挙げたいと思います。新型コロナウイルスの感染拡大により、大きなダメージを受けた地域産業及び家庭生活の再生を図るため、国・県の支援策に町独自の上乘せを検討してまいります。二つ目には、「子育て支援と高齢者福祉の充実」を取り上げたいと思います。保育園料や学校の給食費、18歳までの医療費や通学定期券への補助など、子育て世帯への支援策を強化いたします。三つ目には「地域固有の持ち味を生かす施策の充実」を掲げたいと思います。美しい景観やこの地で育まれた貴重な歴史、文化を町民はもとより、訪れた方々により深く味わっていただくため、周遊ルートの開発や統一感のある案内サインの設置などを進めたいと思います。四つ目ですけれども、「医療提供体制の強化」を目指したいと思っております。信越病院は、この地域における医療の拠点であります。町民が将来にわたって安心して暮らしていくためには、病院の存続と機能の強化が不可欠であります。新しい病院が町民から信頼される施設となるよう全力を尽くしてまいります。以上であります。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） はい。今町長から公約と言いますか、今後取り組みたい施策について答弁がありました。子育て支援と高齢者施設の充実、コロナ禍からの再生、医療提供体制の強化などお話がありましたが、私は少子高齢化の中で、将来町を背負っていくべき若者や子どもたちのために、特に若者定住と子育て支援の充実については、何としても実行したい一つに掲げています。そこで過去に何回か一般質問をさせていただきましたが、鈴木町長の掲げている保育料や学校の給食費、18歳までの医療費や通学定期券への補助などは、非常に具体的な公約で素晴らしい施策だと思いますし、それが実行できたなら、とても画期的なことだと思います。そこでお聞きします。町長の掲げている公約を実行するためには、歳出を選択と集中で大幅に見直すのか、それとも収入面でその財源を確保するために何か得策があるのか、町長のお考えをお聞かせください。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） はい。新しい施策に対する、その財源をどういうふうにするのかと捉えましたが、そのようなことでお答えさせていただきます。小川議員おっしゃられる通り、新しい事業を始める際にはお金が必要になる。そのお金はどうするのかということになりますと、全体の枠の中からその分をひねり出すというのが、一般的かと思いま

す。それで私は、既存事業の見直しという作業も、新たな財源を確保する一つの方法ではないかと思っております。それと、今コロナ対策等でもいろいろ説明させていただいておりますが、いろいろな国・県の補助金があります。これをうまく利活用することによって、新しい財源として使うことができるのではないかというようなことも考えておりました。これについては関係機関の方に働きかけていきたいと思っております。ただし一つ懸念と言いますか、昨日もご説明させていただいたとおり、電気料の高騰であるとか、そういった不確定な要素もあります。例えば、保育料あるいは通学定期券への補助に取り組みますと、これは将来にわたって継続的に続けていかなければ意味がないかと思っておりますので、そういうことの中で、その年ごとに大きく変動するような要素をどういうふうに読んでいくのかというの、一つの課題なのかなと捉えております。そういった中で私とすれば、最終的にはそのようなところにたどり着きたいわけですが、一気に、例えば来年度一気に、そここのところまで到達するというのは、非常に難しいのではないかと思いますので、できれば計画的、段階的に目的とする地点へたどり着けるように努力していきたいと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） はい。町長から歳出を見直す、継続した支援が続くように、一気にではなく、計画的に段階的に進めて行きたいという答弁がありました。厳しい財政状況の中、並大抵ではないと思います。収入面では、さらにふるさと納税の収入確保に力を入れていただくことや、また、町長自ら営業マンとなり、企業に企業版ふるさと納税を働きかける必要があると思います。そちらの件、いかがでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） はい。今、小川議員から提案のありました、ふるさと納税は有力な収入増の選択肢だと、私も考えております。例えば信濃町で採れた野菜を組み合わせ、定期的にお届けするというようなコースなども考えられるかと思ったり、信濃町の産物を、できれば何というんでしょうか、食料と言いますか、食べ物と言いますか、野菜・魚そういった物を組み合わせたギフトのような形にして、定期的にお届けする。そういう取組を考えたら良いんじゃないかなとは思っております。それから企業版のふるさと納税等に関しましては、私どこへでもお願いに行くことは可能かと思っておりますので、いろいろなチャンネルを使いまして多方面に出向いてお願いをしてまいりたいと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） ぜひ町長の公約の実現に向けて収入面確保を努力していただいて、

特に企業版ふるさと納税は令和2年度の税制改正以降、市場規模は拡大しています。令和3年度の寄付金額は、前年度比率約2.1倍、225.7億円。件数は約2.2倍、4922件となり、活用する企業は2年連続で大きく増加しています。1期目の4年間に、少しずつでも良いので、公約が実現できるよう期待しております。次の質問に移ります。政治活動用ビラの基本姿勢に、人口減少問題についても書いてありましたが、以前9月議会で移住促進のための町営住宅の建設や、民間業者が建設する賃貸住宅への補助金の増額について質問しました。その時の答弁の中で、総務課長の方から移住相談が令和3年度に238件あり、それも賃貸物件についての相談が多いということでした。私も移住を考えている方、すでに移住された方に話を聞くと、知らない土地でいきなり家を購入して住むというのは、リスクもありハードルが高いとのこと。まずは信濃町に賃貸物件を借りて住んでみて、良かったら住宅を購入あるいは建てたいという意見が多かったです。現在信濃町の空き家バンクのサイトを見ても、賃貸物件が一軒もない状況です。賃貸物件不足で、信濃町に住みたいと思っても残念ながら住めないのが状況です。そこで町営住宅の建設を、今後考えているのかと、ウッドショックなどで建設資材が高騰して建設費がかさむ中、信濃町民間賃貸住宅建設費補助金の増額について質問しました。前町長の答弁では、信濃町は非常にアパート経営としては難しい位置だということが言われている、建設物価等々も上がってきている、そのことが我々公共事業的に考えても、一過性のいわゆる問題なのか、今後続くのだろうかということも含めて慎重に判断していくということでした。先ほど同僚議員の質問に対して答弁がありましたが、再度町長にお聞きします。移住促進のための町営住宅の建設や信濃町民間賃貸住宅建設費補助金の増額について、どのようにお考えかお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 議員のご指摘の補助金につきまして、回答させていただきます。その前段で、町営住宅を町が建設するというのは、これまでの経過を踏まえまして、あるいは建設後のメンテナンスも含めると、なかなか難しいのかなという中で、民間事業者が町内に賃貸住宅を建設する際に工事費の一部を補助する補助金。先ほど小川議員からもお話がありました民間賃貸住宅建設費補助金でございますが、昨年度の事例をお聞きしますと、2棟8戸のアパートが建設後すぐに満室になったというお話でございます。これらに対するニーズは極めて高いと認識しております。そしてまた加えて、新たに入居いただきますと、町といたしましては住民税、固定資産税、地方交付税なども増額が見込まれますということで、仮に町が建設費の一部、現行は20パーセントであります。それを投資したとしても、10年程度で回収が可能ということでもあります。これは大変に効果の高い事業ではないかと私は思っております。補助率も含めて考えなければいけないのかなとは思っておりますが、ぜひ多くの皆さんにご利用いただけるように、情報提供してまいりたいと思っております。そしてまた今後は、先ほども少し申し上げましたが、既存住宅をリノベーションして、それを賃貸住宅として希望者にお貸し

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録（2日目）

するということも、そういうご提案もいただいているそうですので、そういったことも、この事業に充当できるという形を検討したいと思っております。以上であります。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） 今町長から信濃町民間賃貸住宅建設費補助金の増額だけではなく、リフォームに対しても何か考えている。こんなに前向きな答弁を、私、初めてなものでびっくりしているんですけども、人口減少はどんどん進んでいきます。コロナ禍で都会に住まなくても、リモートワークはできてきて、田舎での生活も注目されています。また最近では、豊かな自然を生かしたキャンプやサウナも人気で注目されています。信濃町を知ってもらい良い機会になっております。とても信濃町に魅力を感じている方が増えている中、移住をしたくても実際に住むところがないというのは残念に思うので、ぜひ信濃町民間賃貸住宅建設費補助金の増額や、リフォームなど一刻も早くまたよろしくをお願いします。最後の質問になります。以前町長に個人的にお会いした時に、若者との意見交換会の場を作りたいとお話がありました。具体的にどのように考えているか、町長にお伺いします。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 町の将来像を検討する際には、これまでの経過あるいは現状を正確に把握することはもちろん、未来を担う若い世代の皆さんの声をお聞きすることが、不可欠であると考えております。様々な方法を駆使して意見交換の場を作ってまいりたいと思っておりますが、具体的にはテーマを絞りましたワークショップを開催する、あるいは個人やグループが企画運営いたします各種イベントに参加させていただくというようなことを考えております。また、あらかじめ日程調整をいただければ、ご指定の場所へ伺って懇談することも可能かと思っておりますので、ぜひ気軽にお声かけいただければなと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） はい。今町長からテーマを絞ったワークショップや、イベントへの参加などを行っていきたいということでしたが、これから信濃町を支えて行く若者との意見交換会は、若者の意見も聞けるのと、若者が町政に興味を持ってもらう意味で、とても良いことだと思います。こちら町長は、呼ばれたらということだったんですけども、町主導型ではやらず、どういった形でやるのかお伺いします。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録（2日目）

■町長（鈴木文雄） はい。先ほどテーマを絞ったワークショップなんかどうかなということなんですけれども、現在、町総合戦略の取りまとめ作業を始めております。またそれは2か月、3か月に1回ぐらいの頻度で、若い世代の方々にも集まっていたいているんですが、その会合に参加していただいております委員の皆さんも大変若い方々でありますので、そういった方々のネットワークを通じて、テーマを絞った将来像に関するワークショップなどを開いたらどうかなと思っております。また、信濃町の長期計画についても、改定の準備をこれからしていくわけなんですけど、そういう場面でも、ぜひ若い世代の皆さんの声をお聞きして、計画に反映したいと思っておりますので、いろいろな機会を通じて、そのような意見交換ができるように調整したいと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 小川議員。

◆3番（小川敬史） 町長から現行のネットワークなどを使って、いろいろ意見交換の機会を増やしていきたいというお話でしたが、他の事業と違ってこちらはお金のかからない事業なので、やる気があればすぐにでも実行できると思います。ただ私自身思うことは、なかなか町主導型だと人が集まらないと思います。私もその話を以前聞き、10名ぐらい今お声かけをさせていただいています。なのでぜひまた協力させていただきます。ぜひ、昔ながらの文化を大事にしつつ、若い方の意見、そして移住して来た方の意見などを取り組み、次世代に安心安全に住める魅力的な信濃町を残して行ってもらいたいと思います。今回の一般質問は、以上で終わりたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 以上で、小川敬史議員の一般質問を終わります。本日は以上で一般質問は終了いたします。念のため申し上げます。12日本会議一般質問は、午前9時45分からの開会となりますので、時間までにご出席ください。ご苦労様でした。

（終了 午後3時15分）